

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19401043
 研究課題名（和文） パプアニューギニアにおける自然環境の資源化と「開発」思想の形成
 研究課題名（英文） Resourcification of Natural Environment and formation of the concept of development in Papua New Guinea
 研究代表者
 豊田 由貴夫 (TOYODA Yukio)
 立教大学・観光学部・教授
 研究者番号：20197974

研究成果の概要（和文）：近年のパプアニューギニアの周辺地域では、金や白檀の発見、新しい換金作物の導入等により土地の経済的価値が見出されるにつれ、住民たちが自然環境に対しこれまでとは違った価値を見出し、権利を主張し始めている。本研究は近年のパプアニューギニアにおける自然環境の資源化という現象を、個別地域の文脈の中で精査することを通じて、現地住民の中で現れつつあるローカルな「開発」思想の可能性について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In recent years local people in Papua New Guinea have found new economical values in their lands. As new economic developments, such as gold mine operation, sandalwood collection, and introduction of new cash crops influence the local Papua New Guineans, they are beginning to regard their natural environment to be important resources. The local Papua New Guineans are now aware of the value of their lands and are beginning to assert their land rights. This research project has investigated the local knowledge of 'development' in contemporary Papua New Guinea by conducting intensive fieldworks.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	5,100,000 円	1,530,000 円	6,630,000 円
2008 年度	3,900,000 円	1,170,000 円	5,070,000 円
2009 年度	3,000,000 円	900,000 円	3,900,000 円
年度			
年度			
総計	12,000,000 円	3,600,000 円	15,600,000 円

研究分野：文化人類学・民俗学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：パプアニューギニア、文化人類学、人文地理学、保全生態学、自然環境、資源化、開発

1. 研究開始当初の背景

本研究メンバーのこれまでの調査により、
 (1)金鉱や白檀の発見、換金作物の導入等によ

り土地が持つ新たな価値が認識された。(2)外部からの環境保護思想や西洋的な自然観、開発思想が流入する中で住民が独自の解釈を施しながら学習している。(3)外部からの開

発思想の流入に適応・対抗する過程で現地住民の中に独自の「開発」思想が芽生えている。(4)開発的介入の影響として、都市部・農村間の人口移動や、都市部から農村部へのUターン型の移動が見られる。といったことが明らかになった。このような状況の下、パプアニューギニアの現地住民は自己を取り巻く自然環境に新たな価値付けを行い、利用可能な資源として認識し直している。以上の背景を踏まえ、本研究メンバーは現在のパプアニューギニア周辺部における自然環境の資源化とも呼ぶべき現象を、ローカルな「開発」思想に注目することにより研究する必要性を認識するに至った。

2. 研究の目的

上記の問題意識に従い、本研究は以下の三点を明らかにすることを目的とした。(1)資源化された自然環境をめぐる生じる諸問題について。(2)住民の中に芽生える「開発」思想がもつ性格について。(3)開発的介入の結果生じた人口移動の現状について。以上三点の問題は、パプアニューギニア周辺地域の現地住民が、急速な近代化や都市化、天然資源開発や世界経済からの影響といった近年の社会状況の下で生じたものであり、従来のパプアニューギニアにおける資源利用とは異なる性格を持っている。パプアニューギニアの在り地住民はこれまでも伝統的に土地や海域をめぐる地域集団ごとと争ってきた。だがそれは集団間の権利の及ぶ範囲の象徴としての性格が強く、経済的価値は希薄であった。だが開発により土地が持つ意味やそこから得られる利益を現地住民が改めて認識することにより、自然環境の資源化と、在り地の「開発」思想という新たな問題が生じることとなった。このような新たな状況がパプアニューギニア周辺社会の住民に様々な形で与える影響について明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

パプアニューギニア国内の自然環境や社会状況の多様性を視野に入れ、本研究プロジェクトのメンバーがこれまで重点的に調査してきたセピック地域に加え、新たにパプア地域、島嶼部、都市部といった、異なる地理的特徴を持つ地域での現地調査を行った。そして、それぞれの地域で換金作物の導入、土地利用の実態、土壌汚染や水質汚染の現状とそれに対する住民の反応、エコ・ツーリズムに代表される観光開発、プランテーション開発、森林伐採の調査等を行った。その際に、特に伝統的な自然環境の利用と、現代的な資

源開発や「開発」思想との間で、現地社会が如何なる対応をとり、新たな状態を解釈し、意味づけているのかに注目したフィールドワークを行った。またこの他にもパプアニューギニアではパプアニューギニア大学や東セピック州政府、観光関係企業での資料収集や聞き取り調査を行った。また首都ポートモレスビーや地方都市ウエワク、ケビエンにおける農村部から流入した人々のコミュニティや中国系をはじめとする外国人コミュニティを対象とした調査も行った。また日本国内では立教大学や東海大学、国立民族学博物館での文献資料収集を行った。また定期的に研究会を開催することにより、各メンバー調査結果の発表や相互の意見交換、問題意識の共有を図った。

4. 研究成果

天然資源の資源化という問題を、パプアニューギニアにおける現地の「開発」思想の誕生という観点から調査・研究することによる本研究プロジェクトの成果としては、以下の6点を挙げることができる。(1)開発が住民に与える影響の再検討。(2)パプアニューギニアの住民にとっての自然観や世界観の現代的側面の問い直し。(3)「科学的知識と伝統的知識」という知識論に関する従来の二元論的枠組みの再考。(3)エコ・ツーリズムに代表される住民の側からの環境概念の捉え直しの実態の把握。(4)水質汚染に対する地域住民の側からの反応の実態。(5)換金作物栽培や鉱物資源の開発に見られる土地利用の変化。(6)外国資本による天然資源の開発に対するパプアニューギニア社会からの反応。これらの研究成果は、近年のパプアニューギニアにおける開発が現地住民にいかなる影響を与えているのかを、経済的・社会的なレベルだけでなく、権利や思想、世界観や自然観といった文化的レベルで解明した部分に特徴がある。それにより、開発や科学的知識やテクノロジーに対する、ローカルな主体からの習合や反発、適応等の現状を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

①熊谷圭知・片山一道「オセアニアという世界」熊谷圭知・片山一道編著『朝倉世界地理講座 第15巻 オセアニア』朝倉書店、査読有、2010年、3-17頁。

②熊谷圭知「パプアニューギニアローカリ

ティと国家の揺らぎ」熊谷圭知・片山一道編著 『朝倉世界地理講座 第15巻 オセアニア』朝倉書店、査読無、2010年、248-263頁。

③川崎一平「パプアニューギニア高地周縁部における開発と住民」熊谷圭知・片山一道編著 『朝倉世界地理講座 第15巻 オセアニア』朝倉書店、査読無、2010年、414-426頁。

④市川哲「オセアニアの華人社会—植民地の労働力移民からトランスナショナルな生活実践へ」熊谷圭知・片山一道編著 『朝倉世界地理講座 第15巻 オセアニア』朝倉書店、査読無、2010年、389-402頁。

⑤豊田由貴夫「国を展示する — パプアニューギニアにおける国家の表象 —」川口幸也編『展示の政治学』水声社、査読無、2009年、307-325頁。

⑥紙村徹「古代中国の靈魂観—ニューギニア研究者の視点から」加藤隆浩編『古代世界の靈魂観』勉誠出版、査読無、2009年、33-42頁。

⑦市川哲「チャイナタウンからグローバル・シティへ—パプアニューギニア華人にとってのストリート経験」関根康正編『ストリートの人類学 下巻 (国立民族学博物館調査報告)』査読有、2009年、第81号、303-325頁。

⑧市川哲「新たな移民母村の誕生—パプアニューギニア華人のトランスナショナルな社会空間」『国立民族学博物館研究報告』査読有、2009年、第33巻第4号、551-598頁。

⑨市川哲「移住経験から見るサブ・エスニシティの説明方法—パプアニューギニア華人を事例として」『社会人類学年報』査読有、2009年、第35号、121-137頁。

⑩豊田由貴夫「パプアニューギニアにおける人口移動」人の移動と文化変容研究センター編『国際的な人の移動と文化変容』ハーベスト社、2008年、査読無、35-50頁。

⑪豊田由貴夫「パプアニューギニアにおけるメラネシア・ピジンの変容」神戸大学大学院国際文化研究科、異文化研究交流センターシンポジウム報告書『ピジンとクレオールの世界—オセアニアとカリブの言語・文化』査読無、2008年、19-26頁。

⑫市川哲「人の移動の交差点としてのコミュ

ニティーパプアニューギニアをめぐる華人の国際移動を事例として—」人の移動と文化変容研究センター編『国際的な人の移動と文化変容』ハーベスト社、査読無、2008年、204-219頁。

⑬ICHIKAWA Tetsu ‘The Role of Religion in Chinese Subethnicity: Christian Communities of Papua New Guinea in Australia.’ *People and culture in Oceania (The Japanese society for Oceanic Studies)*, 査読有、2008年、第24号、31-50頁。

⑭豊田由貴夫「パプアニューギニアの『人喰い』旅行」国立民族学博物館編『オセアニア—海の人類大移動』昭和堂、査読無、2007年、89-94頁。

⑮熊谷圭知「ジェンダーと開発における男性の位置・再考」戒能民江編『国家／ファミリーの再構築—人権・私的領域・政策』（ジェンダー研究のフロンティア1）作品社、査読無、2007年、207-229頁。

⑯市川哲「サブ・エスニシティ研究にみる華人社会の共通性と多様性の把握」『華僑華人研究』日本華僑華人学会、査読有、2007年、第4号、69-80頁。

⑰ICHIKAWA Tetsu ‘Transnational Social Space Based on Local Network: Migration of Malaysian Chinese and Papua New Guinean Chinese.’ Center for Human Migration and Acculturation Studies (ed.) *International Symposium on the Human Migration and Acculturation in the Pacific Rim*. Rikkyo University. 査読無、2007年、1-23頁。

[学会発表] (計 13 件)

①紙村徹「パプアニューギニア東セピック州ワシクク丘陵クオマ族における伝統的長老制の政治社会的流動化とマネー・カルト」南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター人類学部会研究会「ヨーロッパとパプアニューギニアの遭遇」、2010年1月30日、南山大学。

②Yukio Toyoda “Ethnic tourism in Papua New Guinea” 韓国観光学会、2009年7月2日、韓国安眠島。

③紙村徹「天文のない夜空—パプアニューギニアの月の神話」環太平洋神話研究会、2009年世界天文年公認企画シンポジウム「モンゴ

ロイドの宇宙」、2009年7月4日、南山大学。

④石川智士「パプアニューギニア国・東セピック州 クラインビットにおけるヒ素問題」水産学会、2009年3月28日、東京海洋大学。

⑤石川智士・熊谷圭知・新本万里子・豊田由貴夫・加藤登「パプアニューギニア国・東セピック州クラインビットにおけるヒ素問題」平成21年度日本水産学会春季大会、2009年3月28日、東京海洋大学。

⑥ Tetsu ICHIKAWA ‘Creating New Homeland: Remigration and Locality of Papua New Guinean Chinese.’ at Organized Panel “Politics or Culture? : Reflections on Diasporic Chinese.” (Panel Organizer: Gyo MIYABARA, Osaka University) at the 7th Annual meeting of The Japan Society for the Studies of Chinese Overseas. 14th of November, 2009, Osaka University, Osaka, Japan.

⑦ Tetsu ICHIKAWA ‘Natural Resources and International Migration: Malaysian Chinese Community in Papua New Guinea.’ at “Society for East Asian Anthropology & Taiwan Society for Anthropology and Ethnology 2009 Conference.” 5th of July, 2009, Academia Sinica, Taipei, Taiwan.

⑧ Tetsu ICHIKAWA ‘Subethnic Identity in Transnational Social Space: Religion and Locality of Papua New Guinean Chinese.’ at “International Convention of Asia Scholars 6” 6th of August, 2009, Daejeon Convention Center, Daejeon, Korea.

⑨ TOYODA, Yukio ‘The Origin of Sago Starch Extraction in the Sepik Area, Papua New Guinea’ at “9th International Sago Symposium” 19th of July, 2007, Visaya State University, Philippines.

⑩市川哲「トランスナショナルな社会空間におけるエスニシティ—パプアニューギニアの華人を事例として—」日本華僑華人学会第5回大会、パネル「中国系移民の土着化・クレオール化・華人化についての歴史人類学」(パネル代表: 三尾裕子・東京外国語大学)、2007年11月17日、慶應義塾大学。

⑪市川哲「パプアニューギニア、ニューアイルランド島の華人にとっての『伝統文化』とローカリティ」民族芸術学会第108回例会、2007年11月3日、国立民族学博物館。

⑫ ICHIKAWA Tetsu ‘Transnational Social Space Based on Local Network: Migration of Malaysian Chinese and Papua New Guinean Chinese’ at “Symposium on the Human Migration and Acculturation in the Pacific Rim” 14th of July, 2007, Rikkyo University Niiza campus.

⑬ ICHIKAWA Tetsu ‘Diversification of Ethnic Chinese Identities in Transnational Social Space: Comparative Studies of Malaysian Chinese and Papua New Guinean Chinese’ at “International Convention of Asia Scholars 5” 2nd of August, 2007, Kuala Lumpur Convention Centre, Malaysia.

〔図書〕(計 3 件)

①熊谷圭知・片山一道(編著)『朝倉世界地理講座 第15巻 オセアニア』朝倉書店、2010年、482頁。

②Toyoda, Yukio *Anthropological Studies of Sago Palm in Papua New Guinea*, (CAAS, Occasional Papers No. 12) Rikkyo University Centre for Asian Area Studies, Tokyo, 2008, 52頁。

③Kumagai, Keichi et al (eds.) *Beyond the Difference: Repositioning Gender and Development in Asian and the Pacific Context*, (Proceedings of International Workshop for Junior Scholars) Ochanomizu University, Tokyo, 2008. 260頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

豊田 由貴夫 (Yukio TOYODA)
立教大・観光学部・教授
研究者番号: 20197974

(2) 研究分担者

熊谷 圭知 (Keichi KUMAGAI)
お茶の水女子大学・文教育学部・教授
研究者番号: 80153344

川崎 一平 (Ippei KAWASAKI)]
東海大学・海洋学部・教授
研究者番号: 10259377

紙村 徹 (Toru KAMIMURA)
神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号: 40295770

石川 智士 (Satoshi ISHIKAWA)
東海大学・海洋学部・准教授
研究者番号：40433908

市川 哲 (Tetsu ICHIKAWA)
立教大学・観光学部・PC
研究者番号：40435540
(H21：研究協力者)